

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 15 章 21～28 節>

①「なんだ、イエス様のこの失礼な言葉は」と思う箇所？

救いを求めてとりすがる異邦人の女にイエス様が言われた言葉、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない」(24)、「子供たちのパンを取って小犬にやっちはいけない」(26)に驚き、つまり人がいるかもしれませんが、しかし、この女はつまりかななかったのです！ なぜイエス様はこんなことを言われたのか、なぜ女はつまりかななかったのか、その理由を考えることが大事なのです。

②神様には神様のなさり方がある。その中で起こったこと。

イエス様はすでに、異邦人の百人隊長の願いを聞いてその僕を癒されています (8 章)。ですから、イエス様は排他的な民族主義者では決してないのです。「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない」(24)は、イエス様には神の民への宣教が託され、次にさらに他の民への宣教が弟子たちに託された、ということの意味しているのです。「神様には神様のなさり方がある、あっていい」、私たちはこの女と同じように、謙虚に、そう思うべきでしょう。だとすると、イエス様はむごいと思うより、むしろ、ご自分に託された務めを破って女に恵みを注いで下さったのだということを感じるべきでしょう。問題は、では、どのような者にそういうことが起こるのか、起こらない者はどう思えばいいのか、ということでしょう。

③この女から学ぶべきこと。絶対にこの方から離れない！

この女はイエス様の拒否の言葉に腹も立てず、失望もせず、イエス様にすがり続けました。もしイエス様に失望し、別のものに宗旨替えしたとしたら、彼女にとってイエス様はそれだけの方であったということです。しかし、彼女はそうはしなかったのです！ 私たちがこの女から学ぶべきは、イエス様を信じ通したら病気が治るということではなくて、「イエス様こそ、何があっても離れてはならないお方として、神様がお与え下さったのだ」、ということなのです！